

**2016年度同志社大学大学院司法研究科**  
**前期日程入学試験問題解説**  
**小論文**

**第1問**

**問(1)(配点:20点)**

- ・結論を導くための論理構成力とその論理構成を短文で簡潔に表現する能力を評価するための問題。
  
- ・極端に不出来な答案はなかったが、よくできた答案とそうではない答案の二つの山に明確に分かれた結果となった。

(解答例)

「安全」は物理的に把握できるものであって、「安全」が確保されていれば、人に危険を及ぼしたり、物に損害を与えたりすることのない状態にあるといえる。一方、「安心」は心理的に感ぜられるあいまいなものであって、「安心」が確保されていれば、心配がなく、気持ちが落ち着く状態にあるといえる。したがって、「安全」であることや、「安心」であることを、同一の次元で定義づけることはできない。(186字)

**問(2)(配点:30点)**

- ・賛否に関する自分なりの結論を明確にすることと、その結論を基礎づける論理構成力と表現力を評価するための問題。
  
- ・採点に際しては、賛否いずれの立場に立つものであっても同様に、上記論理構成力と表現力を評価した。賛否を明らかにしていない答案は、評価できない。

(解答例)

社会的に活動する者にとって、「安全」の確保に努めることは義務といえる。そうであるにもかかわらず、必ずしも「安全」が確保されない場合があることを知りながら、「安全」確保のためのコストを省き、多くの需要者が「安心」感を求めていることに乗じて需要者を「安心」させる仕組みを導入することによって、高い利益をむさぼる行為には賛同できない。「安全」が確保されず、危害が生じる場合があり得るからである。

しかしながら、本質的には「安全」な商品・サービスであるにもかかわらず、需要者の「安心」を得られないがために割安とされている商品・サービスを需要者が選択し購入することは、供給者側が利益確保の機会を逸失してはいるが、需要者としてはむしろ健全で賢い行動と評価されるべきであり、社会的弊害もなんら生じてもないから賛同できる。すなわち、「安全」を犠牲にしての利益極大化行為には、いかなる場合でも賛同できないが、「安全」が確保されているのであれば、他の点は当事者の創意・工夫にゆだねてよいものとする。(440字)

## 第2問

### 採点の指針と講評

自由に論じてよい問題であるが、解答時間の制約が大きいいため、課題文および記事から関係する考慮要素を拾って要約し、自分の意見を添えるだけでもある程度の評価を与えた。自分の意見を述べていないものは、点数が伸びていない。また、依頼者、代理母、生まれてくる子のいずれの立場に関係する考慮要素か(下記の表参照)を明確にしていない答案が多かったのも残念である。社会一般の利益に関する考慮もあれば、評価したが、その場合、個別の関係者の利害関係だけではなく、公益も重要であるとの指摘が欲しかった。

条件付きの賛成論・反対論は、どの関係者のどの立場を保護・擁護する必要があるか、そのためにはどのような方策が必要かの検討があるかに着目した。無制限の賛成論や絶対反対論であっても、それによって不利益を被る関係者の立場を十分に考慮した論述があれば、十分な評価を与えたが、きめ細かな分析をせずに単純な賛否いずれかの結論をとった答案が多かった。

	代理母出産賛成論	代理母出産反対論
依頼人の立場に関係する考慮要素	不妊に悩むカップルや同性婚のカップルに自らの子を持つ道を開く。	養子縁組等、他の方法によっても子を持つことはできる。
代理母の立場に関係する考慮要素	代理母の同意が前提となっており、自由意思が確保されれば問題がない。貧しい代理母にとっては貧困から抜け出る機会にもなる。 カウンセリング等を通じて代理母の適性を判断すれば、子の引渡しをめぐる紛争を防ぐことができる。	特に経済的・社会的な弱者である場合、「子どもを生むための道具」として搾取される。 「お腹を痛めたわが子」への愛着を断ち切れず、子の引渡しをめぐる紛争が起きる可能性がある。
子の立場に関係する考慮要素	親が誰かについての混乱は、里子や養子でも起こりうる。 依頼者に強く望まれて出生するので、いっぱい愛情を受けることになる。	「自分の親は誰なのか？」が分からなくなって混乱するおそれがある。 妊娠を通じて母性愛を育む機会を持たない依頼者に育てられることになる。
社会一般の利益に関係する考慮要素	搾取の対象としての人身の売買と異なり、愛情の対象である。 代理母の自由意思を確保する制度を整備すれば、代理母にとっては貧困から抜け出る機会ともなる。	子の人身売買である。 社会的、経済的に優位な依頼者が貧しい代理母を搾取する構造となる。